浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案
[地域経営主体]

「うごくマチ なみえ」

提案主体：東邦レオ株式会社
協力：隈研吾都市建築設計事務所、
一般社団法人メタバース推進協議会、
SoVeC株式会社

「うごくマチ なみえ」

「うごくマチ なみえ」4つの特徴

うごくマチ なみえは移動や移築が可能な**仮設建築を中心**とした新しいマチの形です。
浪江駅周辺整備事業と福島国際研究教育機構（F-REI）という２つのダイナミックなまちづくりが進むなか、
まちの整備フェーズに合わせて両地区の特徴を十分に引き出すために、従来の都市計画のようにゾーニングが固定化されたマチとは異なった**躍動的なまちづくり**を提案します。

なみえ PARK

広大な敷地は公園というみんなの共有財産として管理します。浪江町に参加する企業や人が自由に居場所を作れるプラットフォームを緑豊かな公園として整備します。

グリーンインフラと再生可能エネルギー

浪江町の自然を活かして、地域を代表するグリーンインフラを整えます。すでに整備が進んでいる浪江町の水素発電技術を使って、うごくマチのテクノロジーとして活用します。

うごくハコ

オフィスにも、カフェにも、ホテルにもなる移動可能な仮設建築「うごくハコ」です。好きな時に好きな場所でイベントやプロジェクトごとに居場所が作れる新しい建築を整備します。

メタなみえ

リアルなまちづくりと並行して、高速通信やVPSを活用したデジタルまちづくり基盤を構築します。これにより、地域外のにぎわいを呼び込むとともに、浪江の伝統や歴史を伝えるアーカイブとしても機能します。

必要敷地面積：10~14ヘクタール（敷地全体を活用）

なみえ PARK

「うごくマチ」は、公園のなかで運営されていきます。
どんな人でも受け入れてくれるようなインクルーシブ性、どんな出会いがあるかわからない偶然性、
そして大人数でもひとりでも楽しめる多様性を特徴とした場として、「公園」を目指します。
公園の中には、人々がサードプレイスのような居場所として感じてもらえる仕掛けを施していきます。

水路・池

もともと通っている水路を使って、水辺の憩い空間をつくります。池の周りには、うごくハコを置いて風景をハコから楽しむこともできます。

トロッコ

浪江町にはかつて山から切り出した木材を町内の貯木場まで運ぶトロッコ列車が走っており、それを思い出させるような「うごくハコ」のレールを整備します。

お祭り

なみえ町十日市祭など、地元のお祭りを拡大させて広い範囲で開催します。また、「うごく祭り」として浪江町以外のところにも移動したお祭りも実施します。

プロジェクションマッピング/デジタルファーニチャー

デジタル技術を駆使し、公園の中でみんなが楽しめるエンタメ空間を演出します。VRやXR技術を使うことで、県外からもお客さんが集まる仕組みをつくります。

なみえ PARK　自然の力でうごく公園

レインガーデン

レインガーデンとは、降雨時に雨水を一時的に貯留し時間をかけて雨水を地下へ浸透させる植 栽帯のことであり、従来の植栽帯と比較して豪雨時における水害リスク低減や下水管への負荷軽減のほか、ヒートアイランドや生物多様性への寄与、良好な景観形成が期待されます。

Ｔミックス

単粒度のコンクリート再生砕石（他のリサイクル骨材を含む）に腐植をコーティングしたグリーンインフラ用の植栽基盤材。骨材のかみあわせ空隙に雨水を貯留・浸透することができます。腐植をコーティングすることで再生砕石のアルカリ成分が緩衝され、空隙内に植物の根の伸長が可能となります。

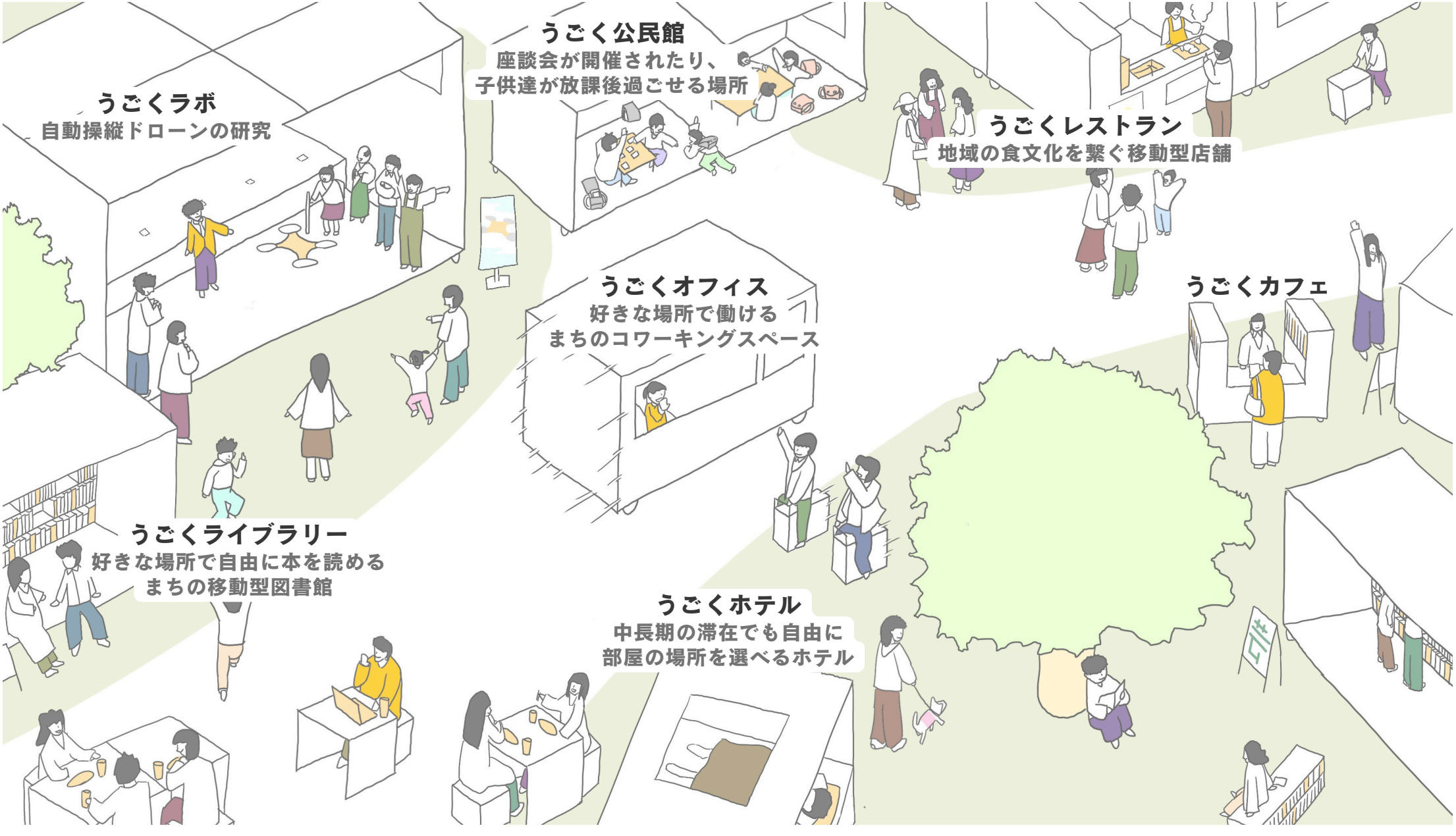
自然エネルギーの活用

浪江町で作られた水素エネルギーや太陽光発電を利用しながら、「うごくまち」の電気を自給自足できるようにします。水素ステーションを設置することで、モビリティや商業施設への供給を可能にします。余ったエネルギーは、浪江駅周辺整備事業など周辺施設へまわし、エネルギーを無駄にせず、浪江町全体で効率よく使います。

FHER
FUKUSHIMA HYDOROGEN ENERGY RESEARCH FIELD

うごくハコ～みんなが自分の好きな「なみえ」を実現する可動式建築～

なみえ PARKに散りばめられた多数のハコは、個人も企業も誰もが自由に使うことができます。
「うごくハコ」の使い方や場所が流動的に変化していくことで、
各所でにぎわいが発生し、「うごくハコ」起点で人々の交わりをつくります。



うごくハコ～みんなが自分の好きな「なみえ」を実現する可動式建築～

ハコの特徴①
可動性
自分の好きな場所に簡単に移動可能

ハコの特徴②
独立性
自分の好きな場所、用途で使用可能

ハコの特徴③
展開性
環境や用途に合わせて様々な施設に変化

ハコの特徴④
多機能性
電源完備で様々な用途に対応

ハコの特徴⑤
アジャイル性
ハコを連結させ大人数で使える大空間に

▼KKAAでの過去事例

▼木庵

施工：植田板金店

CLTで４畳半の小屋をデザインした。コロナ後の新しいライフスタイルに適合した、いかなる機能にも対応する自由な小屋。

▼住箱

snow peakと製作

住箱はアウトドアメーカー、snow peakと製作したトレーラーハウス。

▼浪江町での事例

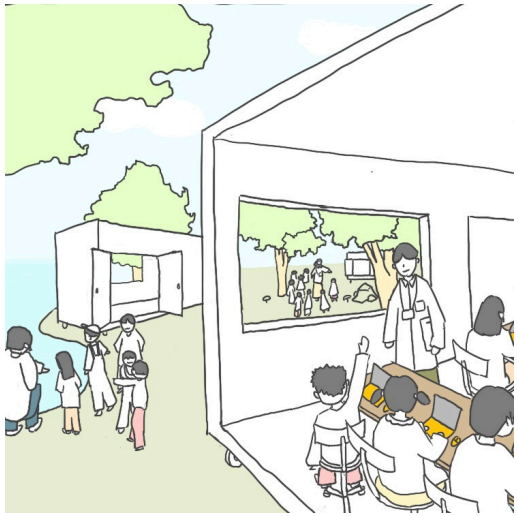
▼ナミエシンカ

snow peakと製作

木の可能性を追求し、snow peakとKKAAがデザインした「住箱」を活用したデザインは、「集中」と「リラックス」を同時に提供。

つながりを生み出す「うごくハコ」

■F-REI 屋外研究所「うごくラボ」



屋外で実験できる「うごくラボ」が集まり、共同研究が可能になる。週末や長期休暇には住民向けのラボ体験イベントを開催。エフレイ・サイエンスラボやサマースクールを通じて、地域の子どもや学生とF-REI研究員が交流し、研究の楽しさを伝える機会を提供する。

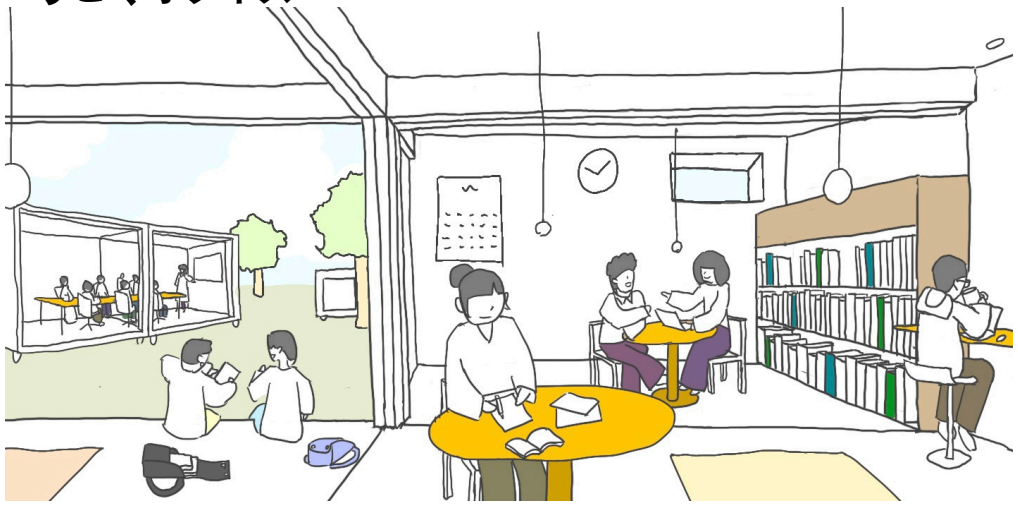
■うごく公民館

住民と訪問者が自然に出会う「うごく公民館」は、場所を変えながら多様な活動を展開する。商品体験イベントの隣で子供が遊んだり、地域の座談会の近くでお年寄りが将棋や囲碁を楽しむなど、従来の公民館では生まれない交流が生まれる特別な公民館となる。

■うごくライブラリー

「うごくライブラリー」は公園内で本を借りて読める移動型屋外図書館。異なるジャンルの本が置かれたハコが連結され、なみえ PARKの各所にライブラリーができ、子供から大人、研究者までが自由に本を楽しめる。

■うごくオフィス

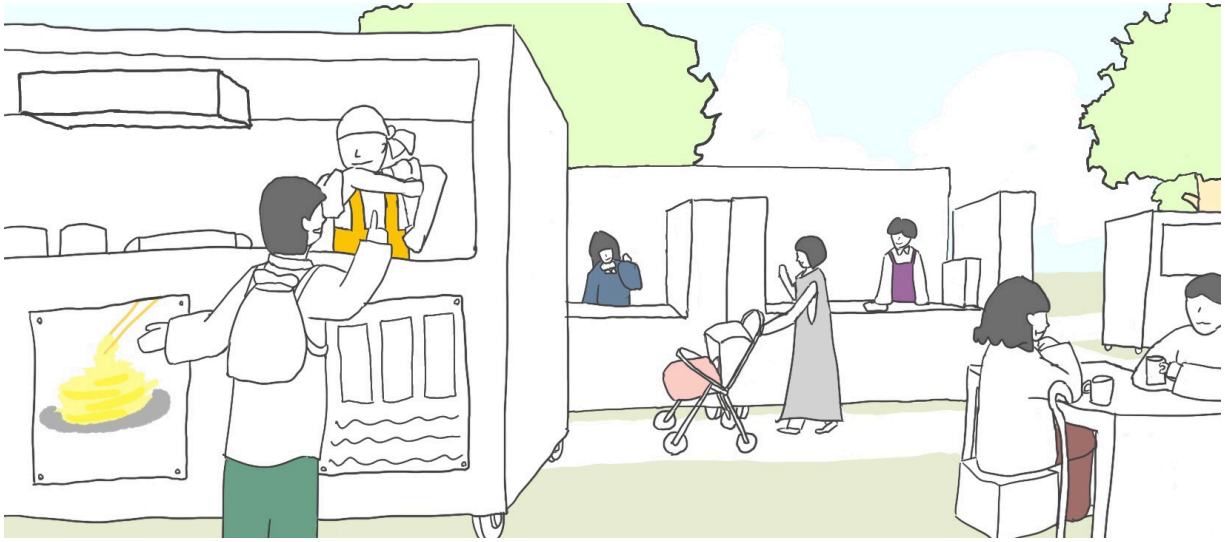


「うごくオフィス」は、研究員や出張中の会社員が個別作業や大人数の会議に利用できる施設。また大人だけでなく子供も勉強スペースとして使用でき、地域のコワーキングスペースとして機能している。

■うごくホテル

「うごくホテル」は、自分が好きな場所に移動して宿泊できる施設。
必要な設備が整い、セキュリティも万全で、個人やグループでの宿泊が可能。各ユニットにはミニキッチンやシャワー、トイレが完備されており、専用アプリで簡単に移動できる。なみえ PARKの美しい自然環境でリラックスし、日常の中で非日常も楽しむことができる。
家族でも、友人同士でも、出張に来た会社員も、研究者たちも、自分のスタイルに合わせて自由で創造的な新しい過ごし方を提供する。

■うごくカフェ



緑が広がるなみえ PARKの中で、キッチンカーやレストランとして活用できる「うごくカフェ」。住民たちはお弁当屋さんやコーヒーショップを自由に営業している。
研究者や会社員たちは、忙しい日常から一時離れ、また親子連れや年配の方々もピクニック気分で食事を楽しんでいる。「うごくカフェ」が地域の食文化を繋ぐ役割にもなり、豊かなコミュニティを築き上げている。

「うごくハコ」と自動運転

「うごくハコ」は研究所から駅までや、なみえ PARKの中など、自分が行きたい場所に、好きなタイミングで簡単に移動できることを目指す。F-REIで研究開発されている自動運転技術と組み合わせることで、なみえ PARKで実証実験が行えたり、町の人が早くその技術を体験できるようになる。

メタなみえ

① 過去と未来を行き来する

新しい施設ができることで、過去の記憶を遮断してしまう恐れがあります。そこで、メタバース技術を使って、過去と未来の浪江町をつなぐ装置としてのバーチャルコンテンツをつくります。過去の町を次世代にも受け継いでいきます。

はちやメタ By ニチゲイ
日本電子計算 × 日本大学芸術学部 × クニエ
テクノロジーが江古田のまちを変える

日本大学芸術学部生がメタバース技術を使い、江古田の町を変えていく実験。100年前の江古田の姿や快速が止まる江古田の町などを表現した。

② 一足早く、移住する

NTT

NTTが提供する「Another Me」というサービスを活用し、もう1人の自分が、現実で訪れる前に浪江町を訪問や移住をすることで事前にまちを体験します。実際に浪江町を訪れなくても、なみえの魅力を伝えることができます。

「Another Me」とは、実在する人間と同じ知性や人格を感じられ、本人として社会の中で認知され活動できる自分の分身のような存在の実現する。(NTT)

③ 拡張現実で人々を呼び込む

XR技術を使った、現実世界とデジタルを融合したエンタメコンテンツで人々を町に呼び込みます。例えば、かつて浪江町を通っていたトロッコ列車を走らせたり、アーティストのライブコンサートを浪江を舞台に実施することができます。

SoVeCは、実際の町を舞台に拡張現実のエンタメコンテンツを多数提供している。写真は銀座の和光のビルで、元旦に龍が飛んでいる様子。

まちづくりへの協力に関すること（まちなみ・景観形成・エリアマネジメント 等）

◉交流地点

西側地区は、生活利便施設や居住地域が揃っている浪江駅周辺整備事業のエリアとF-REI都市計画施設区域をつなぐ役割を持っています。どちらからもアクセスよく、分断が起きないように誰もが親しみやすいデザインやコンテンツが揃っています。そのため、東西の行き来がより活発に行われるようになります。

◉景観形成

まちの景観を大事にするために、全体を緑豊かな公園としています。水路を使った水辺や緑地を増やすことで憩いの場所として親しまれるようにします。高い建物は建てず、広々とした空間を保つことで、居心地の良さを演出します。浪江町周辺整備事業の設計と同じ事務所（KKAA）が行うことで、景観に統一感を持たせます。

◉エリアマネジメント

うごくハコを別地域にも移動させることで、町としての連続性を出したり、イベントやお祭りなども他地域と連携することで、より多くの人を巻き込む仕組みにします。

浪江駅周辺整備事業との相乗効果

固定型インフラと可動型インフラ

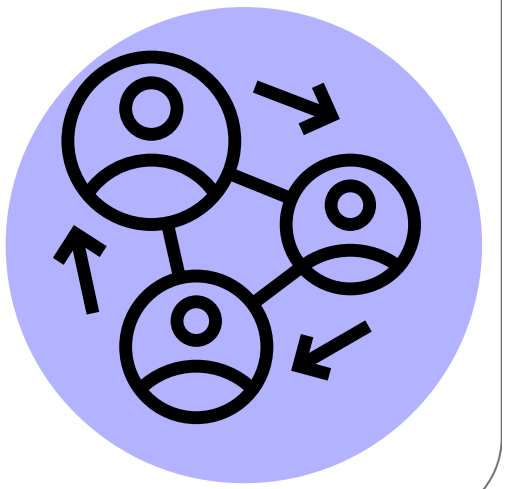
浪江駅周辺整備事業は生活利便施設を備えた安定的な拠点。一方で、「うごくマチ」は仮設建築の柔軟性を活かし、オフィスやカフェ、宿泊施設など多用途に変化する空間を提供し、需要に応じた迅速な対応が可能。

商業的な拡張

「うごくマチ」のスモールビジネスやスタートアップが浪江駅周辺整備事業への橋渡し役となり、イベントやポップアップストアなど新たな商機を創出。
周辺地域の経済活性化に寄与する。

新たな人の流れを生む

浪江駅周辺整備事業に訪れる人々にとって、「うごくマチ」はフレキシブルな滞在・ビジネスの選択肢を提供し、短期滞在者や観光客、企業のリモートワーカーなど、さまざまな利用者層を引き寄せる。お互いの施設で幅広い訪問者を呼び込めるようになる。



生活者の満足度向上

便利な施設だけではなく、寄り道できるようなサードプレイスを設けることで、まちとしての「余白」や「面白さ」が増し、生活者の満足度が高まる。満足度が高まることで、町に愛着をもち、移住者や訪問者も増えていく。

スケジュール

2024　2029　2034

F-REI	用地取得・造成・建築工事等	運営開始
浪江駅周辺	用地取得・基本設計・実施設計・工事	開始
西側地区	準備期間	エリア運営

準備期間は、他施設や他エリアとの連携の協議を重ねることで、浪江町一体型の計画を具体的に進めていく。建築物やなみえPARKができる前から、周辺でイベントやお祭りを行い、地域住民との関係性もしっかり作っていく。

2034　2039　2044

西側地区	エリア運営

公園の整備

イベントやお祭り

うごくハコの移動

周辺施設との連携

施設運営に関すること

自治体

浪江町

↓

事務局

東邦レオ株式会社　KENGO KUMA & ASSOCIATES

施設運営の基本方針

- 事務局が自治体、住民、関連企業との調整役として運営します
- コミュニケーションが必要なところに重点的に人を配置します
- デジタル技術を活用し、より広範囲に関係人口を広げることを目指します

なみえ PARK

公共と民間のパートナーシップモデルを採用し、企業がエリアを賃借しつつも、地域住民とのコミュニケーションを強化する施策を導入します。共用スペースは住民が自由に利用できる一方、企業や研究機関が主催するワークショップやイベントが定期的に開催され、双方向の交流を促進します。

うごくハコ

オンデマンド型の使用モデルを採用します。モジュールは短期間のレンタルから長期契約まで柔軟に対応可能で、地域内外のプロジェクトやイベントに対応します。ビジネスモデルとして、現在ナミエシンカで行われているモデルを参考にして、BtoB向けのコワーキングスペースやBtoC向けのポップアップカフェ、宿泊施設としての利用が想定します。

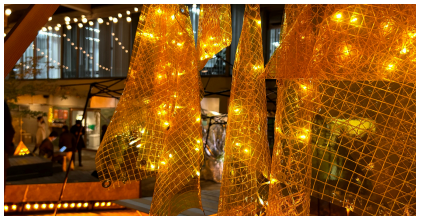
メタなみえ

メタバース空間の一部を民間企業やクリエイターに提供し、バーチャル展示やプロモーションイベントを展開します。研究機関や観光関連施設とも連携し、デジタルコンテンツの活用を推進します。運営は遠隔操作でも可能なので、世界中から技術者を呼び込むことができます。

提案の実現可能性、持続可能性

私たちは「地球OS書き換えプロジェクト」にて、「うごくマチ なみえ」プロジェクトの先駆けとなる実証実験を行ってきました。
本提案は、これらの実証実験の集大成であり、今までの経験やノウハウをすべて詰め込んでいます。

■東邦レオ✕　隈研吾建築都市設計事務所「地球OS書き換えプロジェクト」



＜地球OS書き換えプロジェクトとは＞

「いまこそ地球のOSを書き換えよ」
ハーバードビジネスレビューでの隈研吾氏のインタビューに共鳴した東邦レオ吉川稔（代表）が中心となって始まった、コロナ後の新しいライフスタイルを探る学際的社会実験。
大都市のハコからの脱出を目的として魅力ある「地方」をつなぎ、リアルとバーチャルを繋いだネットワーク上のワーキングスペース構築の実験を重ねました。

■東邦レオ

東邦レオは、「コミュニティ・デベロップメント」をキーワードにハードの空間作りだけでなく、まちの人々と交流しながらソフトのコンテンツも大事にしています。例えば、香川県三豊市にある父母ヶ浜の指定管理を行っており、社員も配置して地元の人々と一緒にエリア全体を盛り上げています。また、大阪府の中津では地元の人たちに光をあてたトークイベントを300回以上開催。ブリュワリーもつくることで、地元の人々とつながる機会を増やし、新しい企画を次々と一緒に生み出しています。

■隈研吾建築都市設計事務所

福島県浪江町駅周辺グランドデザイン基本計画

駅から商業施設まで、ひと続きにつながるアップダウンのあるダイナミックな大屋根が町 に、にぎわいを生み出します。これまで住んでいた方も、そしてこれから住んでみたい方も、 大屋根「なみえルーフ」に集まり、人と人のつながりをつくります。

木庵
コロナ後の新しいライフスタイルに適合した、いかなる機能にも対応する自由な小屋。

住箱
部屋を構成するパネルが外に飛び出すことで、屋外とのつながりを可能に。

組織構成

提案主体

東邦レオ株式会社

企画・ランドスケープ・運営

協力

KENGO KUMA & ASSOCIATES

隈研吾都市建築設計事務所

設計・企画監修

一般社団法人メタバース推進協議会

メタバースコンテンツの企画・連携

SoVeC

SoVeC株式会社
（ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社の100%子会社）

テクノロジー